

# 第3次京都府食育推進計画

## 平成28～32年度

### 概要版

～感謝の気持ちで「いただきます。」～

#### 施策の展開

- 世代に応じた食育の推進
- 健康増進につながる食育の推進
- 家庭における食育の推進
- ライフスタイルの多様化に対応する食育の推進
- 京都ならではの食育の推進



©京都府 まゆまる 2758017

私たちは、農林水産物の命や旬をいただき、自分の体にその活力を取り込んで、毎日元気に生きています。それは、単に「食べる」という個人の行為だけでなく、「つくること」や「伝えあうこと」など、健康、暮らし、地域との関わり合い、地域の産業そして文化などとの深い関係がなければ成り立ちません。

本第3次京都府食育推進計画は、府民のみなさまが、食に関わる全ての方々とともに、毎日の食を正しく選ぶことができる「食選力」と、それをしっかり食べるための「調理力」を向上させ、生涯にわたって心身を健康に保つとともに豊かな人間関係の中で、それぞれの家庭や企業、産業や地域、そして京都府の未来が輝き続けられることを目指して策定しました。

平成28年3月  
京 都 府

## 第3次京都府食育推進計画策定にあたって

- 近年、スーパーマーケットには十分な食品があり、外食や中食も十分に充実してきているにもかかわらず、一人暮らし世帯の増加や二世帯・三世帯同居世帯の減少、働き方の多様化など、ライフスタイルの多様化や経済的な問題等により、欠食や栄養バランスの偏りなどの不規則な食生活などの食に関する無関心や孤食などの問題が深刻化しています。
- 京都府には、先のユネスコ無形文化遺産の登録を受けた「和食；日本人の伝統的な食文化」を支える京野菜や宇治茶等の食材、京菓子や京漬物等の食品、京料理や京のおばんざい等の調理などの技術と伝統が培った食の文化があります。
- 府民のみなさまが、食に関わる全ての方々とともに、毎日の食を正しく選ぶことができる「食選力」と、それをしっかり食べるための「調理力」を向上させ、生涯にわたって心身を健康に保つとともに豊かな人間関係の中で、それぞれの家庭や企業、産業や地域、そして京都府の未来が輝き続けられることを目指します。
- 京都府として、府民のみなさまが「食」を見つめ直すきっかけとなり、よりよい食生活を実現できるよう積極的な施策展開に努めます。

## 第3次京都府食育推進計画における施策の展開

### 世代に応じた食育の推進

【重点事項】子どもや若い世代に対する食育の強化

#### 子どもの食

##### ○現状と課題

- ・家族そろって食事をする機会の減少
- ・郷土食や行事食に接する機会の減少
- ・栄養の偏り、食生活の乱れ
- ・幼稚園・保育所、学校などでの食育推進
- ・学校給食は生きた指導教材



##### ○対策

- ・幼稚園・保育所などでの調理体験
- ・小・中学校での農作業体験等実践型食育
- ・地元農林水産物利用給食で地産地消と地域への関心を高める
- ・自分で作った弁当を学校で食べる「お弁当の日」の取組
- ・高校などで主体的に食生活を営む力を身に付ける

#### 若い世代の食

##### ○現状と課題

- ・20代の朝食欠食率最も高く30代以降でも上昇
- ・婚姻、子どもの誕生などを契機に、朝食をとる習慣がもたらされていることも
- ・夜型生活や無理なダイエットで食習慣の乱れ



##### ○対策

- ・実際に朝食をとるように仕向ける仕組みづくり
- ・大学、企業などに朝食をとる仕組み導入の働きかけ
- ・朝食も含めたバランスの良い食事の推奨

#### 壮年期の世代の食

##### ○現状と課題

- ・生活習慣病の発症リスクが高まる
- ・食生活に注意を払う必要がある
- ・摂取カロリーが大きく肥満の割合が高い



##### ○対策

- ・外食となりやすい昼食をバランスの取れたものに例え、社員食堂で低カロリー、バランスの取れた昼食の導入など
- ・企業近隣の食堂と提携する等健康に役立つ食事提供の仕組みの構築

#### 高齢者の食

##### ○現状と課題

- ・食生活に最も気をつけている世代
- ・朝食の欠食率は最も低い
- ・買い物や調理を自ら行うのが困難な方も



##### ○対策

- ・地元農林水産物提供店舗等に宅配サービスの働きかけ
- ・高齢者施設、病院、農産物直売所などで地元農林水産物を利用した料理の提供

### 健康増進つなげるに食育の推進

【重点事項】健康増進に関連した食に関する正しい知識の普及活動の強化

##### ○現状と課題

- ・情報が氾濫し食の誤った情報もある
- ・食の正しい知識が浸透しているとは言い難い
- ・知識はあっても食の実践に至らない



##### ○対策

- ・食材や栄養学に関する知識の普及・啓発
- ・食の安全に関する講演会等による知識の普及・啓発
- ・健康診断結果等を利用した食事指導

## 家庭における食育の推進

【重点事項】朝ごはんを毎日食べる運動の強化

### ○現状と課題

- ・家庭は食育に関し多くの役割を担う
- ・共働き世代の増加
- ・家庭で十分な食育が行われていないことも
- ・若い世代だけでなく子どもにも朝食の欠食がある
- ・朝食を欠食する習慣を持った世代が親になる

### ○対策

- ・朝食の重要性等が家庭に届くよう頻繁に情報発信
- ・家族全員が調理に積極的に参加するよう啓発
- ・休日にできる範囲で家庭での食育を行うよう啓発
- ・食の安心・安全、食選力、調理力を学ぶ機会を提供

## 食品ロス

### ○現状と課題

- ・家庭を含め食品ロスの問題が顕在化
- ・家庭における食べ残しや期限切れ食品
- ・食品関連業者における食品ロスの発生

### ○対策

- ・必要以上に食品を買わない、使い切る
- ・食品ロス削減の啓発を府民運動として展開
- ・フードバンクなどの主催者募り育成
- ・京都府食品ロス削減府民会議（仮称）の設立

## ライフスタイルの多様化に対応する食育の推進

【重点事項】家庭以外における食事の大切さの啓発活動の強化

### ○現状と課題

- ・単独世帯が増加し、孤食が増加
- ・食の簡素化、欠食、食への無関心の増加
- ・食に対する自発的行動と励ましあう環境の不足
- ・単独世帯も含め、より良い食事がとれる環境づくり

### ○対策

- ・自らの食の目標を掲げ行動する食育宣言の実行と実践できる環境整備
- ・食品事業者による食情報提供の増加
- ・高齢者へ良質な食事を宅配する店舗の増加

## 京都ならではの食育の推進

【重点事項】食文化の継承対策の強化

### ○現状と課題

- ・和食に代表される京の食文化
- ・家庭料理などで京の食文化の継承が不十分
- ・多様な人材をつなぎ地域で交流することにより食文化を伝承

### ○対策

- ・行事食やおばんざいのレシピ化、研修会の実施
- ・学校や直売所等を拠点に食育活動による地域交流
- ・きょうと食いく先生を派遣し交流を活発化
- ・健康ばんざい京のおばんざい弁当の販売促進

## 関係者の皆様をお願いしたいこと

### ○幼稚園・保育所など

- ◆体験型食育の実践

### ○検診機関

- ◆適切な食事指導

### ○きょうと食育ネットワーク

- ◆ネットワークの連携を重視した食育活動

### ○食育ボランティア

- ◆食育の実践機会の提供
- ◆食育の活動参加の働きかけ

### ○学校など

- ◆学校教育活動全体を通じた食育
- ◆生きた教材としての学校給食の充実
- ◆家庭、地域との連携強化

### ○高齢者施設、病院、食品事業者

- ◆高齢者が食を楽しむ環境の整備

### ○食品事業者

- ◆健康増進に配慮した食の提供
- ◆農林水産物の生産情報等の提供
- ◆食品の製造・加工情報等の提供
- ◆多様な食事の提供

### ○家庭

- ◆一人ひとりの自覚と実践
- ◆家族で食育を推進
- ◆子育てにおける望ましい食環境づくり
- ◆地域・学校における食育活動への参加・協力
- ◆食文化・食べ物を大切に考える考え方の継承
- ◆お弁当の日

### ○大学など

- ◆朝食をとりやすい環境の整備

### ○企業など

- ◆朝食をとりやすい環境の整備
- ◆健康的な食事を取りやすい環境の整備

### ○大学、研究機関

- ◆食文化の研究・保存

### ○地域の活動グループ

- ◆個々のつながりの強化
- ◆食育の実践機会の提供

## 計画の目標一覧

項目		現状 (26年度)	目標 (32年度)
1	実践型食育を実施している小・中学校の割合	57%	100%
2	「お弁当の日」を実施する府内の学校の数	20校	30校
3	学校給食への地元農林水産物の供給品目数の割合	18%	30%
4	大学、企業、老人施設等の食堂で地元農林水産物を多く使用する「たんとおあがり京都府産施設」の増加	145施設	200施設
5	食品表示法や機能性表示食品等に関する講習会の開催	—	年5回
6	「きょうと健康おもてなし食の健康づくり応援店」の増加	567店舗	800店舗
7	食の安心・安全府民大学（仮）の開講	—	年6回
8	朝食を毎日食べる府内小学生の割合（6年生）	87%	95%
	朝食を毎日食べる府内中学生の割合（3年生）	82%	90%
9	食育宣言を行い、健全な食生活をおくる府民	—	10,000人
10	食事の宅配事業を実施する「京野菜ランド」の数	—	5カ所
11	京都における季節の行事食などの研修会の実施	—	年4回
12	「きょうと食いく先生」の授業数の増加	108授業	300授業
13	「健康ばんざい京のおばんざい弁当」の販売数	年6,285個	年15,000個

## 食育に関連する京都府ホームページURL（平成28年3月現在）

きょうと食育情報



<http://www.pref.kyoto.jp/shokuiku/>

「たんとおあがり 京都府産」施設



<http://www.pref.kyoto.jp/tisantisho/1165913652332.html>

きょうと食育ネットワーク



<http://www.pref.kyoto.jp/shokuiku/network.html>

京野菜ランド



<http://www.pref.kyoto.jp/tisantisho/20151105.html>

京都府の地産地消



<http://www.pref.kyoto.jp/tisantisho/>

きょうと食農体験農場



<http://www.pref.kyoto.jp/shokuiku/130319.html>

## 推進体制

- 府民運動として推進 食育に関連する様々な団体が加入している「きょうと食育ネットワーク」やその他食育に関わる団体と連携し、食育を府民運動として推進します。また、府民により近い市町村と連携し、それぞれの役割に基づく取組を推進します。
- 京都府内における体制 京都府の消費者行政の推進を図るための全庁的な組織である京都府くらしの安心・安全推進本部に置かれた食の安心・安全部会において、関係部局が連携し、総合的に食育の取組を進めます。

京都府農林水産部食の安心・安全推進課（計画に関するお問い合わせ）

TEL：075-414-5656 FAX：075-414-4982

E-mail：shokuanzen@pref.kyoto.lg.jp ホームページ：www.pref.kyoto.jp/shokuiku/index.html

## 京都府のこれまでの主な食育関連施策

### 1 きょうと食いく先生等派遣事業（農林水産部） ※目標 1 2

京都府内の保育所・幼稚園、学校、地域等における農作業や調理等の体験を重視した食育（体験型食育）を推進し、京都府ならではの食育を実現するため、京都府が「きょうと食いく先生」を認定。

### 2 京都府食の府民大学（農林水産部） ※目標 7

食に関する正しい知識の提供とその活用を目的に、京都府ホームページ上に「食の府民大学」を開講し、映像教材として5分～10分程度の動画を公開。

### 3 きょうと食の安心・安全ヤングサポーター登録制度（農林水産部）

第5次食の安心・安全行動計画「食の信頼感向上に向けた情報の提供と府民の食の選択力向上」の取組として、将来を担う若者が食に触れ、親しむ機会を増やし、食の安全、食文化及び食への興味関心の更なる向上を目指して、大学生等を対象とした「きょうと食の安心・安全ヤングサポーター登録制度」を創設。

### 4 きょうと食育ネットワーク（農林水産部）

府内の食育に取り組む関係者がそれぞれの特性を生かして協働し、府民運動として食育を推進。食育シンポジウムの開催、イベント出展、きょうと食育強化月間（11月）、京都府食のみらい宣言・実践活動表彰等の普及啓発事業、食育事例集作成、SNS発信等の情報収集・情報提供等を実施。

### 5 たんとおあがり京都府産施設認定（農林水産部） ※目標 4

地産地消の推進を目的に、京都府産農産物の利用と食文化等の情報発信を意欲的に行う病院・福祉施設、社員食堂を有する企業、大学、幼稚園・保育所等を認定。

### 6 京都健康おもてなし 食の健康づくり応援店事業（健康福祉部） ※目標 6

京都府民の健康の現状は、「ちょっと太りぎみになってきたかな・・・」「血圧が気になる」などの人が増えてきています。外出先でも「野菜たっぷり」「塩分ひかえめ」「カロリー表示、アレルギー表示がされている」など、健康づくりを応援する店舗を登録。

### 7 健康ばんざい 京のおばんざい弁当普及推進事業（健康福祉部） ※目標 1 3

先人の様々な知恵が盛り込まれている「おばんざい」の良さを活かし、「おいしさ」と「健康」の両立を目指して京都府が企画したお弁当シリーズ。野菜を120g以上使用する、揚げ物は1料理以下など、8項目の厳しい規格基準を満たし、京のおばんざい弁当普及推進協議会において認定。

### 8 京都府立大学和食文化学科開設（文化スポーツ部）

2013年「和食：日本人の伝統的な食文化」がユネスコの無形文化遺産に登録されたことを機に、和食文化の中心地として、2019年京都府立大学に「和食文化学科」が開設。



## 令和 2 年度当初予算案主要事項（令和元年度 2 月補正含む）説明

## 農 林 水 産 部

事業名	きょうと食いく先生活動拡大・強化事業費		新規・継続の別		一部新規	
	予 算 額	9,700千円	国 庫	起 債	その他	一般財源
			7,390	—	—	2,310
事業内容  目的 対象 方法等	<p><b>1 趣 旨</b> 「きょうと食いく先生」の派遣、地域の食育支援活動、若い世代を対象とした食育出前講座の開催等により体験型食育を強化し、地域や府民の食育を推進する。</p> <p><b>2 事業概要</b></p> <p><u>(1)食いく先生派遣事業</u> 2,440千円 学校、保育所等へ「きょうと食いく先生」等を派遣</p> <p><u>(2)食いく先生交流・スキルアップ等事業</u> 400千円 「きょうと食いく先生」と教育関係者との交流会、養成講座等を開催</p> <p><u>(3)食いく先生魅力発信事業（新規）</u> 620千円 教育機関等における食いく先生の活躍の場を拡大するため、食いく先生の魅力を分かりやすく伝えるツールを作成</p> <p><u>(4)地域食育支援事業</u> 800千円 ①NPOや地縁団体等による地域に根ざした食育活動を支援 ②広く府民に食育の重要性を浸透させるための食育シンポジウム、パネルディスカッションの開催</p> <p><u>(5)ヤング食育強化事業</u> 200千円 若い世代を対象とした食育出前講座など、次世代への食育を実施</p> <p><u>(6)市町村食育推進事業</u> 5,240千円 市町村の食育推進リーダーの活動などを支援</p>					
担当課・担当名	農 政 課	食の安全・食育担当	課・担当	電話番号	075-414-5656	

令和2年度当初予算案主要事項（令和元年度2月補正含む）説明

健康福祉部  
農林水産部

事業名	きょうと「食の安心・安全」確保事業費		新規・継続の別		継続	
	予算額	29,357千円	国庫	起債	その他	一般財源
			6,580	-	870	21,907
事業内容 目的 対象 方法等	<p><b>1 趣 旨</b> 食の安心・安全行動計画等を踏まえ、関係部局が連携し、食品表示の適正化、食に関する情報発信、食品衛生監視指導等を強化することにより、府民の食への信頼を確保する。</p> <p><b>2 事業概要</b></p> <p>○ 食の安心・安全情報発信 (419千円) ② リスクコミュニケーション等の実施により、府民の食に対する不安を解消するとともに、「食の府民大学」講座の充実により、府民の「食」に関する学習環境を整備するなど、府民の食の選択力向上を図る。</p> <p>○ 食品衛生監視指導 (15,853千円) ① 食品衛生法改正に伴うHACCP（ハサップ）による衛生管理の制度化を踏まえ、事業者に衛生管理の手法について啓発を行うとともに、食品衛生推進員「京の食“安全見はり番”」等による自主衛生管理の推進、食品衛生監視機動班による事業者への監視・指導の実施や食品等の放射性物質、添加物等の検査項目を充実し、食の安心・安全を確保する。</p> <p>○ 食品検査 (3,855千円) ① 府内に流通している食品等の検査を行い、定期的に結果を公表して食の安心・安全を確保する。</p> <p>○ 遺伝子組換え食品検査 (3,954千円) ① DNA検査機器により遺伝子組換え食品の分析を実施し、表示内容の検査を行うことにより食の安心・安全を確保する。</p> <p>○ 拠点保健所業務管理基準（GLP）導入 (3,746千円) ① GLP（業務管理基準）の導入により、精度管理体制を構築するとともに検証体制を整備し、検査の信頼性を確保する。</p> <p>○ 食品表示パトロール (1,530千円) ② 産地偽装など食品表示に関する事件が発生する中、関係職員が合同巡回調査を実施することにより違反事実に対率的かつ迅速に対応し、食の安心・安全を確保する。</p>					
担当課・担当名	①生活衛生課 食品衛生担当 ②農政課 食の安全・食育担当		課・担当 電話番号		① 075-414-4773 ② 075-414-5656	



事項	策定時 (H26)	28年度 達成状況	29年度 達成状況	30年度 達成状況	令和元年度 達成状況	令和2年度 達成状況	達成目標 (令和2年 度)	達成状況 ※1
1 実践型食育を実施している小・中学校の割合	57%	73%	92%	89.5%	91.7%		100%	△
2 「お弁当の日」を実施する府内の学校の数	20校	22校	20校	◎ 64校	◎ 57校		30校	◎
3 学校給食への地元農林水産物の供給品目数の割合	18%	16.4%	16.5%	15.8%			30%	▼
4 大学、企業、老人施設等の食堂で地元農林水産物を多く使用する「たんとおあがり京都府産施設」の増加	145施設	154施設	152施設	169施設	166施設		200施設	△
5 食品表示法や機能性表示食品等に関する講習会の開催	—	◎ 年5回	◎ 年6回	◎ 年7回	◎ 年5回		年5回	◎
6 「きょうと健康おもてなし食の健康づくり応援店」の増加	567店舗 食情報提供店	753店舗 食情報提供店含む	766店舗 食情報提供店含む	794店舗 (食の健康づくり応援店のみ)	788店舗 (食の健康づくり応援店のみ)		800店舗	△
7 食の安心・安全府民大学の開講	—	◎ 年14回	◎ 年6回	◎ 年6回	◎ 年14回		年6回	◎
8 朝食を毎日食べる府内小学生の割合(6年生)	87%	86.2%	85.8%	83.7%	85.3%		95%	▼
朝食を毎日食べる府内中学生の割合(3年生)	82%	81.1%	81.3%	77.3%	79.7%		90%	▼
9 食のみらい宣言(食育宣言)を行い、健全な食生活をおくる府民	—	2,149人	4,228人	7,094人	9,714人		10,000人	△
10 食事の宅配事業を実施する「京野菜ランド」の数	—	1箇所	1箇所	2箇所	◎ 9箇所		5箇所	◎
11 京都における季節の行事食などの研修会の実施	—	◎ 年7回	◎ 年4回	◎ 年4回	◎ 年4回		年4回	◎
12 「きょうと食いく先生」の授業数の増加	108授業	202授業	267授業	◎ 329授業	◎ 373授業		300授業	◎
13 「健康ばんざい京のおばんざい弁当」の販売数	年6,285個	◎ 年15,004個	◎ 年25,351個	◎ 年39,734個	◎ 年42,185個		年15,000個	◎

※1 達成状況 ◎: 目標達成、△: 第3次計画作成時と現状値を比較して改善、▼: 作成時と現状値を比較して悪化

第3次京都府食育推進計画（評価と課題）

資料3-5

項目	H26 策定時	R1 実績値 (達成率)※1	R2 目標値	達成状況 ※2	成果	課題	考察
1 実践型食育を実施している小・中学校の割合	57%	91.7% (81%)	100%	△	策定時と比較し、大きく増加	過去3年間は9割にとどまる。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の関係で低下が予想される。	新型コロナウイルス感染症対策を受け、今後は情報伝達技術を活用した方法も検討する必要がある。
2 「お弁当の日」を実施する府内の学校の数	20校	57校	30校	◎	府内学校へ「お弁当の日」の働きかけを行い目標達成。	自主性や食への興味関心、地域連携の向上に関与する取組だが、取組数増加には、学校、保護者等の理解、協力が不可欠である。	学校、地域、家庭、行政の連携推進、未実施校への情報提供等。
3 学校給食への地元農林水産物の供給品目数の割合	18%	15.8% (-18%) ※H30	30%	▼	地域と自治体が連携し、地場産物の活用が進んでいる地域がある。	地場産物の取り扱い品目数の拡大や量の確保、規格、価格等。	地場産物を活用することの教育的意義の理解促進及び自治体と学校、地域の相互の連携が必要である。
4 大学、企業、老人施設等の食堂で地元食材を多く使用する「たんとおあがり京都府産施設」の増加	145施設	166施設 (38%)	200施設	△	施設での京都府産野菜の利用促進。使用している地元産食材の情報提供を施設が行うことで、施設利用者に食材のPRができた。	施設の地産地消等の取組を利用者、府民へPR。登録数の少ない企業、幼稚園等へのPR。	関係機関へのPR、施設登録のメリット提供（京野菜情報提供、広報）。
5 食品表示法や機能性表示食品等に関する講習会の開催	—	年5回	年5回	◎	府内食品関連事業者等への表示ルール周知徹底、理解向上。	食の府民大学を活用したネット講習の周知徹底や認知度の向上、法律の解説に加え生活に役立つ食の知識としての啓発の促進。	SNS、食の府民大学等を活用した情報発信。
6 「きょうと健康おもてなし食の健康づくり応援店」の増加	567店舗	778店舗 (食の健康づくり 応援店のみ) (91%)	800店舗	△	飲食店等外食店舗で制度の理解が進み、店舗数は大きく増加。	目標店舗数は達成できていない。	店舗数の増加に向けて、店舗向け及び府民向けの周知を強化する必要がある。
7 食の安心・安全府民大学(仮)の開講	—	年14回	年6回	◎	目標数を上回る講座を開講、内容を充実させるとともに、SNSを活用した情報発信を開始し、府民が食に関する情報を自由を得る機会を増加させた。	利用促進に向けた府民のニーズに応じた講座の開講と効果的な発信による認知度の向上。	社会ニーズや課題に応じた内容（農林畜水産物、郷土料理、健康増進等）の講座を検討する。
8 朝食を毎日食べる府内小学生の割合(6年生)	87%	85.3% (-21%)	95%	▼	多くの児童が基本的な生活習慣を確立	策定時より低下、朝食の欠食	家庭等への啓発の充実、早期の生活習慣の確立
朝食を毎日食べる府内中学生の割合(3年生)	82%	79.7% (-29%)	90%	▼	多くの生徒が基本的な生活習慣を確立	策定時より低下、朝食の欠食	家庭等への啓発の充実、早期の生活習慣の確立
9 食育宣言を行い、健全な食生活をおくる府民	—	9,714人 (97%)	10,000人	△	府民運動として、食育ネットワークと連携して実施。参加者の自発的取組を促し、府民への波及効果を得た。	参加者の大半が子どもであり、幅広い世代への普及が課題である。	各種団体と連携した取組拡大等
10 食事の宅配事業を実施する「京野菜ランド」の数	—	9箇所	5箇所	◎	目標を達成し、「京野菜ランド」の登録対象となりうる府内直売所は52/59施設あり、一定の成果が得られた。	地域における情報発信や流通の核となる役割	
11 京都における季節の行事食などの研修会の実施	—	年4回	年4回	◎	食いく先生と連携した研修会の開催を実施。	若年層への普及啓発、行事食等を指導できる講師の高齢化等	SNSの活用、学校給食を通じた郷土料理の普及啓発等
12 「きょうと食いく先生」の授業数の増加	108授業	373授業	300授業	◎	体験型食育を指導できる食育実践者との連携による食育を推進できた。	食いく先生のさらなる広がり。食いく先生紹介動画の活用。	情報伝達技術を活用した非対面型の食育の方法も検討が必要である。食いく先生と連携した取組の推進。
13 「健康ばんざい京のおばんざい弁当」の販売数	年6,285個	年42,185個	年15,000個	◎	会議やイベント等団体での受注販売や病院内売店における販売により販売数が大きく増加したことにより、目標販売数を達成できた。	新型コロナウイルス感染症対策を受け、令和2年3月以降販売数が減少している。	販売数の増加とともに、府民向け周知を強化する必要がある。

※1 達成率 (R1実績値-H26実績値)/(R2目標値-H26実績値)×100

※2 達成状況 ◎:目標達成、△:第3次計画作成時と現状値を比較して改善、▼:作成時と現状値を比較して悪化